

テーマ：2010年10-12月期GDP（2次速報値）の予測
～ 前期比年率▲1.7%への下方修正を予想 ～

発表日：2011年3月3日（木）

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ 設備投資の下振れを主因に1次速報から小幅下方修正を予想

3月10日に内閣府から公表される2010年10-12月期実質GDP（2次速報）は、前期比年率▲1.7%（前期比▲0.4%）と、1次速報段階の前期比年率▲1.1%（前期比▲0.3%）から下方修正されると予想する。本日公表された法人企業統計の結果を受けて設備投資が下方修正される見込みであることや公共投資の下方修正が影響する。もっとも、修正幅はそれほど大きくないことに加え、「駆け込み需要の反動による個人消費の減少や輸出の不振がもたらしたマイナス成長」という構図は1次速報から変わらない。足元で既に景気が踊り場を脱却しつつあるなか、10-12月期のGDPマイナス成長は、いずれにしても過去の統計という位置付けである。景気認識に修正をもたらすものにはならないだろう。

2次速報予測値

	(%)
実質GDP (前期比年率)	▲ 0.4 ▲ 1.7
民間最終消費支出	▲ 0.7
民間住宅	3.0
民間企業設備	0.1
民間在庫品増加(寄与度)	0.2
政府最終消費支出	0.2
公的固定資本形成	▲ 7.1
財貨・サービスの輸出	▲ 0.7
財貨・サービスの輸入	▲ 0.1
名目GDP (前期比年率)	▲ 0.7 ▲ 3.1
GDPデフレーター(前年比)	▲ 1.6

一次速報

	(%)
	▲ 0.3 ▲ 1.1
	▲ 0.7 3.0
	0.9 0.2
	0.2
	▲ 5.8
	▲ 0.7 ▲ 0.1
	▲ 0.6 ▲ 2.5
	▲ 1.6



※断りの無い場合、前期比(%)
(出所)内閣府「国民経済計算」

○ 設備投資と公共投資が下方修正

設備投資は前期比+0.1%と、1次速報段階の同+0.9%から下方修正されると予想する。本日公表された法人企業統計では名目設備投資が前期比+0.7%と増加したが、QE推計に際して行われるサンプル替えの影響を軽減するための断層調整などを行えばプラス幅は縮小することに加え、供給側推計値も下方修正されるとみられる。企業収益の回復を背景に設備投資は緩やかな持ち直し傾向にあるとみられるが、そのペースは極めて緩慢である。

公共投資についても、1次速報段階で未公表だった12月分の建設総合統計の結果を反映して前期比▲7.1%と、1次速報段階の同▲5.8%からさらに下方修正されるだろう。また、在庫投資の寄与度は+0.2%ポイントと、1次速報（同+0.2%ポイント）から変化はないと予想する。